

進路指導主事

2021. 12. 13

中学校には、進路指導主事という役割を担う先生がいる。主な業務は、3年生の進路対策である。本来は、学校全体の進路指導におけるリーダーであるのだが、実際的には3年生の進路対策がメインとなりがちである。3学年の担当教員が務めることが多いのも事実である。

野田中学校の進路指導主事は、KR先生である。今年4月から本校に勤務している。転勤1年目で3年生の学級担任、そして進路指導主事である。本人からすれば想定外のことであっただろう。転勤するだけでも大きなエネルギーを使う。そこに3年生担当、しかも学級担任と進路指導主事である。なかなかしびれる展開である。

きっと1学期はつらい日々が続いたにちがいない。教科の授業も部活動の指導もある。対外的な仕事もある。もう勘弁してくださいといったところだろう。それでも、彼女は、いつも生徒の傍にいます。生徒のすぐ近くいるタイプの先生である。だから、よく生徒に声をかけている。今では、ずっと前から3学年の生徒たちを担当していたかのようである。

2学期になり、彼女は変わってきた。たぶん、本来の力を発揮し始めたのだと思う。「頼まれごととは試されごと」で、できない人には頼まないということか。彼女ならばできるだろう、やってくれるだろうと思ったから、重責を担ってもらうことにしたのだと思う。

その期待に見事に応えている。これから3年生の進路事務が本格化していく。彼女が司令塔であり、リーダーであることは間違いないが、進路はチーム戦である。3学年のスタッフはもとより、学校全体で組織の総力をあげて進めなければならない。

彼女を支えるとか助けるとかのレベルでは足りない。3月末に、彼女が、大変だったけれど、やらせてもらってよかったと思うぐらいでないといけない。そう思ってくれれば、彼女が成長できたということである。そして、少しでも、いい職場にきたと思ってくれればと思う。

司令塔やリーダーが、自ら印刷室にこもっているようでは危うい。ここで、重要なポジションとなるのが、3年生の副担任である。それは誰か。初任者のSS先生である。またまた彼の登場である。原稿をいただき、印刷室でひたすら印刷するだけでもだいぶ違う。自然と資料を見るようになる。それだけで勉強になる。彼のことである。何も言わなくても、多くのことを吸収するはずである。進路指導主事であるKR先生の片腕になればいいのである。

私は、小学校から中学校に転勤となり、いきなり3年生の副担任となったので、よくわかる。進路指導主事たる者、片腕がいるといかないとは大違いである。KR先生は、SS先生に特別なことをしなくてもよい。どんどん仕事をまわせばよい。それが、若手を育てることになる。

野田中学校は、これから3年生全員の進路実現に向けて、3月までの長い戦いに挑むことになる。総大将は校長である。軍師がKR先生である。みんなでKR先生を盛り立てていきたい。